

2026 年 8 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社三陽商会
代表者名 代表取締役社長 兼 社長執行役員
平林 義規
(コード：8011 東証プライム)
問合せ先 経営統轄本部 IR・広報戦略部長
谷内 祥宏
(TEL: 03-6380-5623)

第 2 四半期（中間期）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想を修正することと致しましたので、下記の通りお知らせ致します。尚、通期連結業績予想に変更はありません。

記

1. 2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	1 株 当 たり 中 間 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 27,600	百万円 100	百万円 50	百万円 40	円 銭 4.02
今回修正予想（B）	25,700	△400	△360	△480	△48.19
増減額（B－A）	△1,900	△500	△410	△520	
増減率（％）	△6.9	－	－	－	
（参考）前期実績 （2026 年 2 月期第 2 四半期（中間期））	27,042	△213	△149	△299	△28.10

（注）1 株当たり中間純利益について、本日公表の「自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の買付けに係る事項の決定に関するお知らせ」に記載した取得予定株式数は勘案しておりません。

（参考）2027 年 2 月期の通期連結業績予想（2026 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益
通期	百万円 60,000	百万円 2,100	百万円 2,000	百万円 4,020

2. 修正の理由

今期のアパレル市場においては、2026 年 6 月 30 日に開示した第 1 四半期決算短信に記載した通り、内外の政治経済情勢の先行き不透明感や恒常的な物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりを受け、中高級品市場は総じて低調な推移が続いております。

第 2 四半期に入って以降は、特に春夏プロパー商戦最終盤の 6 月において天候不順が続いた影響で、市場全体が大きく低迷しました。当社においても、プロパー販売が不振で、結果として 6 月単月の売上高が前年比 90%に留まり、営業利益も前年から大幅に低落する結果となりました。一方、7 月のクリアランス以降の商戦においては、昨年はプロパー販売不振をセール

で補填するため過度なセール販売を実施した結果、粗利率等 KPI が大幅に悪化した反省を踏まえ、本年は KPI 改善を最優先課題として、プロパー販売の徹底強化を図るとともにセール販売を適正規模に抑制した結果、売上高は前年を下回ったものの、プロパー販売比率、粗利率等 KPI は大幅に改善しております（7-8 月のプロパー販売額は前年比 108%、粗利率は前年差 +3.3pt）。しかしながら、6 月の落ち込みを挽回するまでには至らず、第 2 四半期累計としては当初計画を下回る見通しであります。

従いまして、当社は、2026 年 4 月 14 日に公表した 2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想について、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益をそれぞれ修正致します。尚、2027 年 2 月期通期業績予想については、7 月以降プロパー販売額が前年を上回っていること、又 KPI が大幅に改善していることから、第 3 四半期以降もこの基調を維持することにより、第 2 四半期までの業績下振れを挽回することが可能と判断しており、従前予想を維持することと致しました。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上